

2017年10月26日

経済レポート

中部圏のインバウンド消費(2017年7-9月期)

～ 訪日外国人数、インバウンド消費額ともに二桁台の伸びで過去最高 ～

調査部 副主任研究員 杉本宗之

【要旨】

2017年7-9月期に中部圏を訪れた外国人数は112万人と推計され、増加基調で推移している。前年同期と比べた伸び率は+11.3%と前4-6月期に比べて大幅に伸張し、1年ぶりに二桁の伸びとなった。訪日外国人数が多い主な県について見ると、愛知県が前年比+19.6%の74.7万人と二桁増となり、四半期ベースで過去最高を記録した。静岡県も同+8.2%の41.8万人と1年ぶりにプラスに転じ、四半期ベースで初めて40万人を突破し、過去最高を記録した。一方、岐阜県は前期(17年4-6月期)に25.3万人(同+8.9%)が訪れ過去最高を記録したが、今期は同-4.9%の13.1万人と3ヶ月ぶりに前年を下回った。

中部圏のインバウンド消費額は前年比+21.6%の686億円と推計され、2ヶ月ぶりに増加し、二桁の伸びとなった。四半期ベースの消費額としては比較可能な2011年4-6月以降において初めて600億円を超えた。

主な県について見ると、愛知県は前年比+22.0%の453.1億円と2013年10-12月期以来16四半期連続で増加が続いている。静岡県は同+27.9%の154.9億円と5四半期ぶりに増加した。一方、岐阜県は同-15.4%の38.1億円と2四半期連続で減少した。

一人あたりインバウンド消費額(消費単価)についてみると、中部圏は前年比+9.2%の6.2万円と推計され、3四半期ぶりに増加した。中部圏におけるインバウンド消費単価は足下で持ち直しの動きがみられる。

2017年7-9月期の中部圏のインバウンド消費

政府統計¹によると、2017年7-9月期の日本全国の訪日外国人数は前年比+18.8%の744万人と四半期ベースで過去最高を記録し、インバウンド消費額は同+26.7%の1兆2,305億円、一人あたり消費額は同+6.6%の16.5万円となった。訪日外国人数は高い伸びが続いており、インバウンド消費額の伸びも勢いを取り戻してきている。

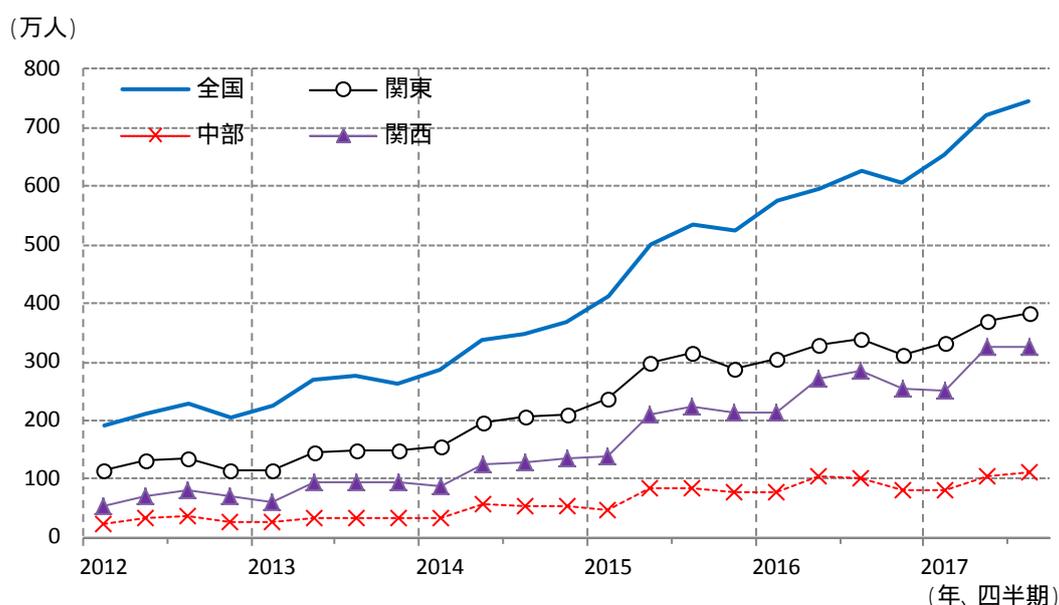
このような中、中部圏を訪れた訪日外国人は堅調に増加を続けており、インバウンド消費額も均してみると緩やかに増加している。本稿では、最近の中部圏のインバウンド消費について、当社（三菱UFJリサーチ&コンサルティング〔以下MURC〕）推計において地域単位にブレイクダウンした推計値²を元に足下のインバウンド消費の動向について概観する。

(1) 訪日外国人数の動向

2017年7-9月期に中部圏を訪れた外国人数は112万人と推計され、増加基調で推移している。前年同期と比べた伸び率は+11.3%と前4-6月期に比べて大幅に伸張し、1年ぶりに二桁の伸びとなった。全国（同+18.8%）や関東（同+12.5%）、関西（同+13.9%）の伸び率を下回っているものの、その差は縮まっている。

訪日外国人数を県別に見ると、愛知県が前年比+19.6%の74.7万人と16年4-6月期以来5四半期ぶりの二桁増となり、四半期ベースで過去最高を記録した。16年10-12月期以降前年比マイナスが続いていた静岡県は同+8.2%の41.8万人と1年ぶりにプラスに転じ、四半期ベースで初めて40万人を突破し、過去最高を記録した。

図表1. 訪日外国人数の動向



(出所) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。全国は観光庁公表値。

¹ 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」

² 地域毎の数字は、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの推計値。推計方法については、藤田・塚田・杉本(2015)の補論を参照。

また、三重県は同 +25.7%の 5.0 万人と 2 ヶ月ぶりに増加し、福井県は同 +6.1%の 1.2 万人と 16 年 1-3 月期以降 7 四半期連続で増加した。一方、岐阜県は前期（17 年 4-6 月期）に 25.3 万人（同 +8.9%）が訪れ過去最高を記録したが、今期は同 -4.9%の 13.1 万人と 3 四半期ぶりに前年を下回った。

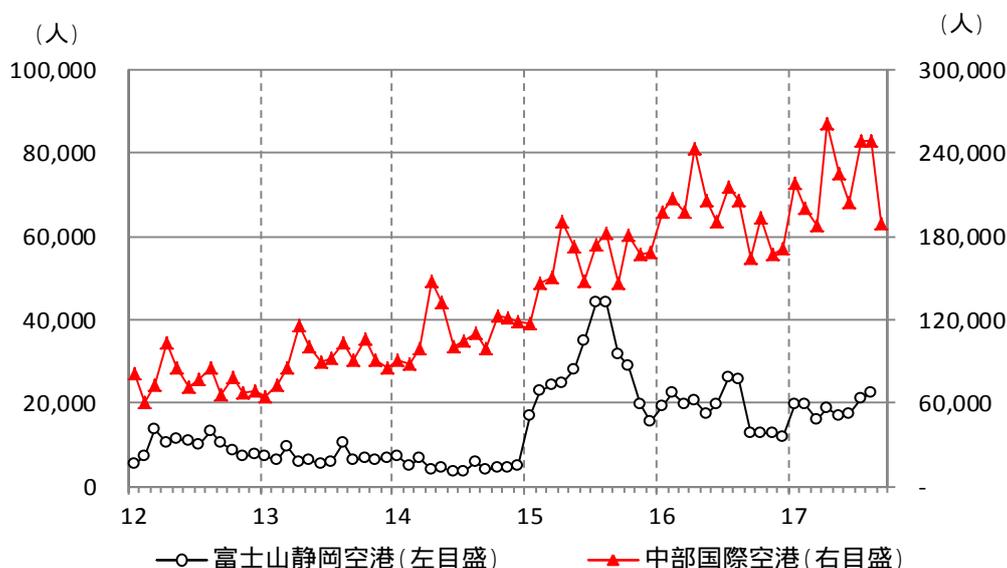
中部国際空港を利用する外国人数は、17 年 4 月以降前年を上回っており、特に 7~9 月は二桁増となっている。7-8 月期の出入国者数を国籍・地域別で見た場合、香港（前年同期比 +62.8%）、韓国（同 +36.1%）の増加が著しい。

図表 2. 訪日外国人数の動向（地区・県別）

(単位)	2016年				2017年					
	7-9月期		10-12月期		1-3月期		4-6月期		7-9月期	
	実数 (万人)	前年比 (%)								
愛知県	62.5	8.6	49.4	1.4	55.7	7.4	65.0	0.6	74.7	19.6
岐阜県	13.8	44.0	16.5	-4.6	15.8	5.7	25.3	8.9	13.1	-4.9
三重県	4.0	30.7	4.8	57.7	4.0	5.3	4.6	-14.4	5.0	25.7
東海3県		14.4		2.4		6.9		1.8		15.7
静岡県	38.6	18.4	26.9	-8.8	28.1	-4.8	33.2	-5.6	41.8	8.2
福井県	1.1	90.2	1.0	23.4	1.7	45.1	1.0	2.9	1.2	6.1
中部5県	100	18.7	81	3.0	82	4.4	104	0.4	112	11.3
富山県	4.2	-9.7	6.0	-16.6	3.2	75.9	14.3	-5.9	4.5	7.1
石川県	9.8	29.0	11.1	-15.4	10.7	27.5	21.9	14.9	10.6	8.3
長野県	11.0	14.9	17.6	-7.5	25.5	40.5	23.9	13.5	12.5	13.7
滋賀県	3.8	18.9	3.9	-8.3	3.4	10.9	8.2	99.4	2.7	-28.5
昇龍道9県		17.9		-2.1		13.5		5.7		10.0
関東地区	340	7.4	314	8.3	332	8.8	371	13.0	382	12.5
関西地区	284	26.3	253	18.0	252	17.4	327	20.0	324	13.9
全国	626	17.1	606	15.5	654	13.6	722	21.1	744	18.8

(注) 東海3県、昇龍道9県の前年比は各県の延べ人数の単純合計値をもとに算出。

図表 3. 中部圏の主要空港における出入国外国人数



(注) 中部国際空港の17年9月の値は中部国際空港(株)公表の速報値
(出所)法務省「出入国管理統計」、中部国際空港(株)「利用実績」

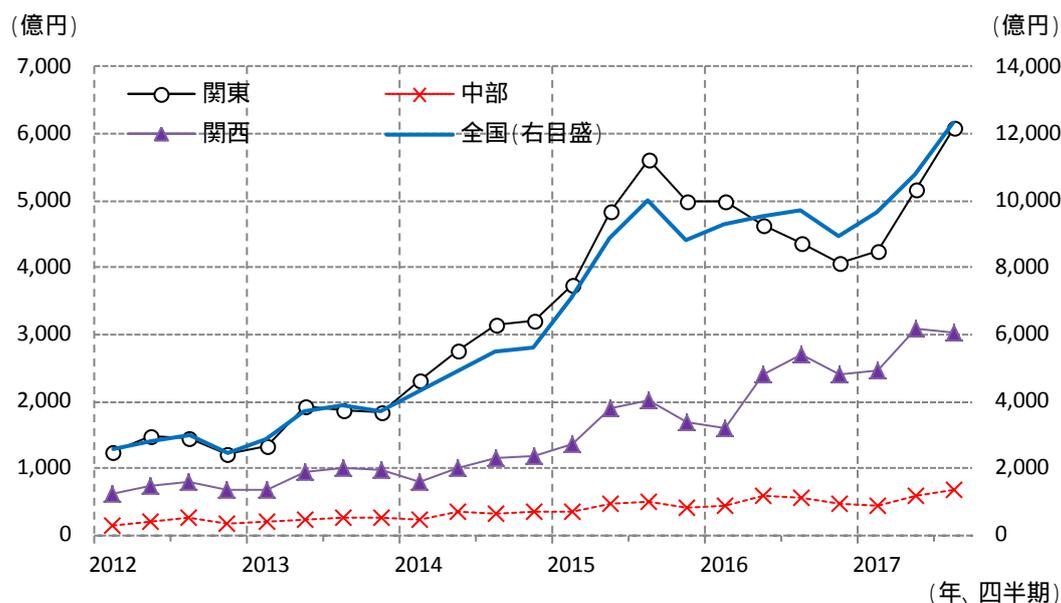
(2) インバウンド消費額の動向

2017年7-9月期の全国のインバウンド消費額の伸び率は前年比で+26.7%と、4四半期連続で増加し、増加幅が拡大している。このような中、中部圏のインバウンド消費額は同+21.6%の686億円と推計され、2ヶ月ぶりに増加し、二桁の伸びとなった。四半期ベースの消費額としては比較可能な2011年4-6月以降において初めて600億円を超えた。

県別に見ると、愛知県は前年比+22.0%の453.1億円と2013年10-12月期以来16四半期連続で増加が続いている。静岡県は同+27.9%の154.9億円と5四半期ぶりに増加した。また、三重県は同+116.9%の32.9億円と前年同期の2倍以上のインバウンド消費額となった。一方、岐阜県は同-15.4%の38.1億円と2四半期連続で減少し、福井県も同-37.6%の7.3億円と2四半期連続で減少した。

なお、中部国際空港の免税店売上高について見ると、7-9月期は前年比3割増と大きな伸びを示している。もっともこの免税店売上高には日本人が購入した分も含んではいないが、7-9月期の日本人の旅客数の伸び(前年同期比+3.0%)を考えると、免税店売上高の大きな伸びは増加した外国人旅客の寄与が大きいと考えられる。

図表4. インバウンド消費額の動向



(出所) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。全国は観光庁公表値。

図表 5 . インバウンド消費額の動向 (地区・県別)

(単位)	2016年				2017年					
	7-9月期		10-12月期		1-3月期		4-6月期		7-9月期	
	実数 (億円)	前年比 (%)								
愛知県	371.5	26.4	304.2	24.3	298.2	13.9	397.4	10.1	453.1	22.0
岐阜県	45.0	16.4	36.7	-5.8	47.8	4.9	42.8	-39.3	38.1	-15.4
三重県	15.2	-5.4	23.2	138.0	7.3	-15.9	17.5	-25.9	32.9	116.9
東海3県	432	23.8	364	24.1	353	11.8	458	0.6	524	21.4
静岡県	121.1	-19.8	98.2	-3.6	77.8	-25.1	124.2	-2.8	154.9	27.9
福井県	11.7	194.2	3.1	-36.6	10.5	80.7	2.4	-67.2	7.3	-37.6
中部5県	564	12.1	465	16.3	442	3.7	584	-1.0	686	21.6
富山県	16.4	53.6	11.3	-14.9	6.0	-41.8	24.7	-2.3	14.4	-12.2
石川県	41.2	106.1	39.2	10.5	42.1	99.1	56.9	-4.6	43.6	5.8
長野県	31.0	31.6	58.0	-17.3	255.5	18.3	49.0	-17.4	59.4	91.7
滋賀県	6.2	-24.0	14.1	54.2	4.2	-55.0	14.3	57.1	12.0	93.1
昇龍道9県	659	16.5	588	11.3	750	9.8	729	-1.9	816	23.7
関東地区	4,379	-21.8	4,075	-18.6	4,242	-15.1	5,169	11.5	6,095	39.2
関西地区	2,704	34.9	2,410	43.1	2,454	52.1	3,082	27.6	3,024	11.9
全国	9,716	-2.9	8,922	1.3	9,679	4.0	10,776	13.0	12,305	26.7

図表 6 . 中部国際空港における免税店売上高



(注) 2014年3月以前の国際線旅客数の内訳(外国人)は非公表
 (出所) 中部国際空港(株)「中部国際空港実績一覧」

(3) 一人あたりインバウンド消費額の動向

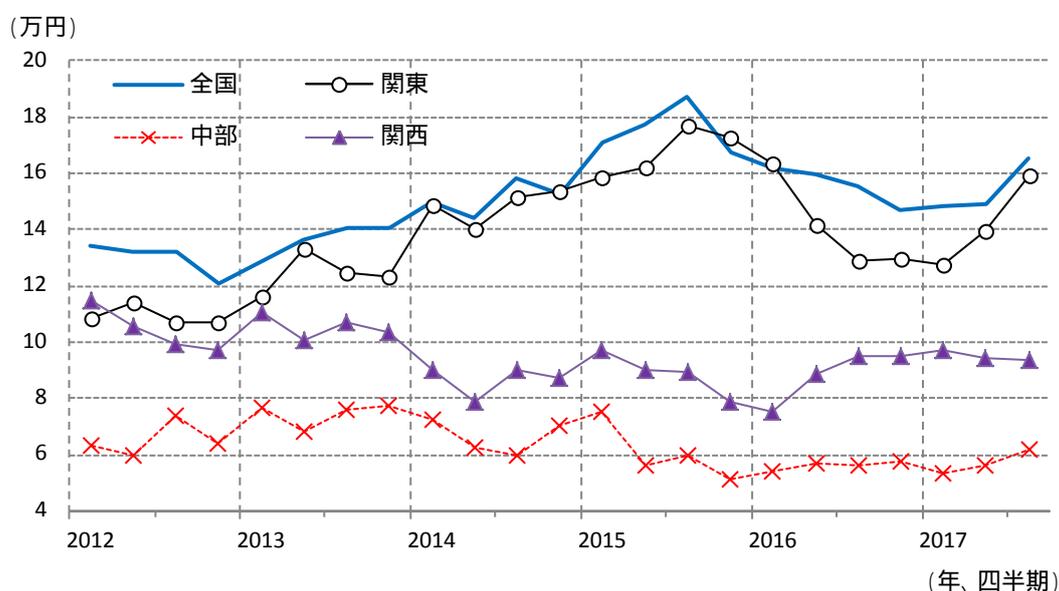
インバウンド消費額を訪日外国人数で除した一人あたりインバウンド消費額（消費単価）³についてみると、中部圏は前年比+9.2%の6.2万円と推計され、3四半期ぶりに増加した。中部圏におけるインバウンド消費単価は2012年10-12月期から2015年1-3月期にかけて平均すると約7.0万円の水準で推移していたが、2015年4-6月期からは水準を落とし、平均して約5.5万円の水準で推移してきた。足下では消費単価に持ち直しの動きがみられる。

県別に見ると、愛知県は前年比+2.0%の6.1万円と5四半期連続で増加が続いている。静岡県は同+18.1%と2四半期連続で増加し、三重県は同+72.6%の6.6万円と3四半期ぶりに大きく増加した。一方、岐阜県は同-11.0%の2.9万円と8四半期連続で減少が続いている。また、福井県は同-41.2%の6.0万円と2四半期連続で大幅に減少した。もっとも、県別の消費単価はサンプル要因によって大きくぶれる可能性があり、特にサンプル数が少ない県（三重県、福井県など）の数字を見る際には注意が必要である。

中部圏において最も訪日外国人の数が多い愛知県では、2015年7-9月期から消費単価の下落が続いていたが、16年7-9月期から上昇に転じ、足下では緩やかに持ち直している。

宿泊旅行統計の県別の外国人延べ宿泊者数についてみると、足下の17年7月は中部5県の中で愛知県が唯一前年を上回り+17.3%と二桁増となった。愛知県の消費単価の持ち直しは、外国人延べ宿泊者数の増加が寄与していると考えられる。

図表5. 一人あたりインバウンド消費額の動向



(出所) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。

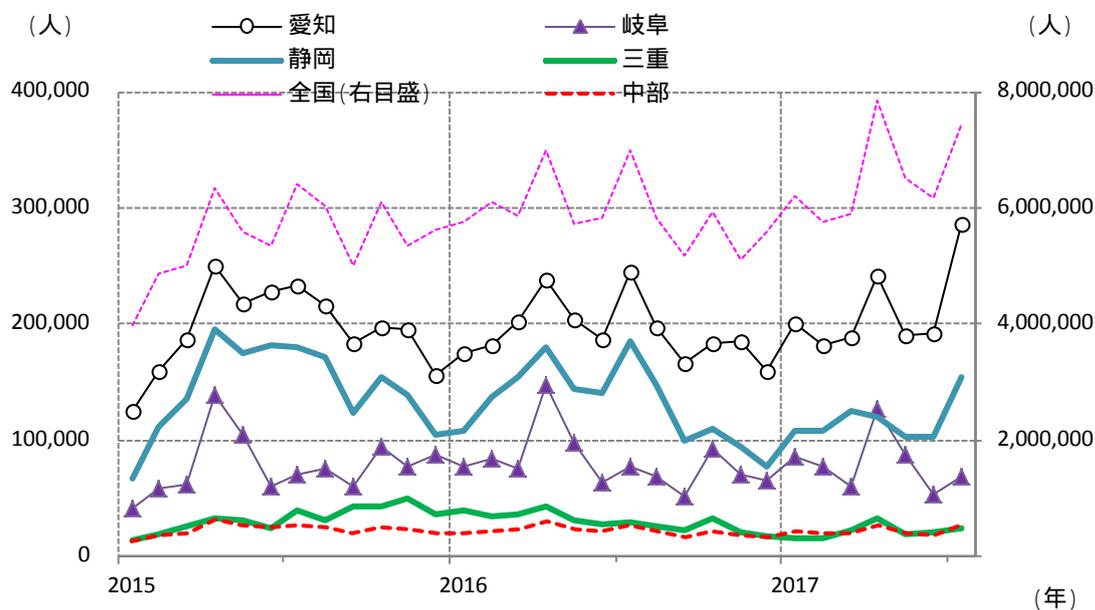
³ 地域別消費単価は、パッケージツアーに含まれる国内収入分を加味したMURCの推計値であり、観光庁「外国人消費動向調査」の消費単価とは異なる。

図表6. 一人あたりインバウンド消費額の動向(地区・県別)

(単位)	2016年				2017年					
	7-9月期		10-12月期		1-3月期		4-6月期		7-9月期	
	実数 (万円)	前年比 (%)								
愛知県	5.9	16.3	6.2	22.6	5.4	6.1	6.1	9.4	6.1	2.0
岐阜県	3.3	-19.1	2.2	-1.3	3.0	-0.8	1.7	-44.2	2.9	-11.0
三重県	3.8	-27.6	4.8	50.9	1.8	-20.2	3.8	-13.5	6.6	72.6
東海3県		8.2		21.2		4.5		-1.2		4.9
静岡県	3.1	-32.3	3.7	5.7	2.8	-21.3	3.7	3.0	3.7	18.1
福井県	10.2	54.6	3.1	-48.6	6.0	24.5	2.3	-68.1	6.0	-41.2
中部5県	5.6	-5.6	5.8	12.9	5.4	-0.7	5.6	-1.3	6.2	9.2
富山県	4.0	70.1	1.9	2.0	1.9	-66.9	1.7	3.8	3.2	-18.0
石川県	4.2	59.9	3.5	30.7	3.9	56.2	2.6	-17.0	4.1	-2.3
長野県	2.8	14.5	3.3	-10.6	10.0	-15.8	2.1	-27.2	4.8	68.6
滋賀県	1.6	-36.0	3.7	68.2	1.2	-59.4	1.7	-21.2	4.4	170.0
昇龍道9県		-1.2		13.8		-3.2		-7.2		12.5
関東地区	12.9	-27.2	13.0	-24.8	12.8	-21.9	13.9	-1.3	15.9	23.7
関西地区	9.5	6.8	9.5	21.2	9.7	29.5	9.4	6.3	9.3	-1.8
全国	15.5	-17.1	14.7	-12.2	14.8	-8.5	14.9	-6.7	16.5	6.6

(注) 東海3県、昇龍道9県の前年比はインバウンド消費額を当該地域内の各県の延べ人数の単純合計値で割った値をもとに算出。

図表6. 外国人延べ宿泊者数の推移



(出所) 観光庁「宿泊旅行統計」

(参考文献)

- ・ 藤田隼平 (2016) 「2016 / 2017 年インバウンド見通し」三菱UFJリサーチ&コンサルティング調査レポート
- ・ 藤田隼平、塚田裕昭、杉本宗之 (2015) 「中部地域におけるインバウンド消費の現状と今後の見通し」三菱UFJリサーチ&コンサルティング調査レポート

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。